

5年担任 齋藤 健司 教諭 の紹介

共に生きる力を育む

子どもたちが元気よく「ただいま！」と教室に戻り、担任が「おかえり」と温かく迎える・・・その光景は、まるで家庭の一場面のような安心感とぬくもりに包まれています。齋藤健司教諭の学級には、子どもたち一人一人が自分らしくいられる空気が自然に流れています。

齋藤教諭はこれまで19年間、中学校・高等学校の体育教師として、授業や生徒指導、部活動に全力で取り組んできました。その経験は決して平坦なものではなく、多忙を極める日々の中で、生徒と真剣に向き合い続けてきた積み重ねがあります。そうした歩みを経て、今、少人数の学級で子どもたちと向き合う姿には、「目の前の一人を大切にする」という教育の原点が、より深く息づいているように感じます。



学級には10名の子どもが在籍し、リーダーシップを発揮する子、マイペースを大切にしている子、エネルギーにあふれる子と、実に多様です。しかし齋藤教諭の学級では、その違いが「良さ」として受け止められています。互いの個性を認め、否定することなく支え合う姿は、まさにこれからの社会に求められる姿そのものです。

話し合いから生み出された級訓「十人十色～明るく優しいポピーの花を咲かせよう～」には、子どもたちと担任の思いが見事に表れています。ポピーの花のようにそれぞれが自分らしく輝きながら、周囲を明るく優しく彩る存在へ・・・この願いを日々の生活の中で丁寧に育てている齋藤教諭には、確かな指導力があります。

齋藤教諭の教育は、単に知識や技能を教えるものではなく「共に生きる力」を育てる営みです。一人一人の違いを尊重し、その違いを力に変えていく学級経営は、まさにこれからの学校教育の一つの理想像だと感じています。